

報道機関 各位

熊本大学

全国最多のコクゾウムシ圧痕を発見！  
— 宮崎市本野原遺跡 —

(概要説明)

熊本大学文学部歴史学科小畑弘己（おばたひろき）教授（55歳）は、宮崎市田野町本野原に所在する縄文時代後期前半の大規模遺跡である本野原遺跡出土土器を 2012 年よりおよそ 3 年間にわたり圧痕※調査した結果、173 点という全国最多のコクゾウムシ圧痕を検出しました。コクゾウムシは縄文時代の定住的生活様式と豊富な貯蔵食物の存在を示す重要な証拠となります。本研究結果は、6 月 13 日に開催される平成 27 年度宮崎県考古学会総会の講演で発表されます。（※圧痕とは土器粘土中に紛れ込んだ植物の種子や昆虫の痕跡）

(説明) ※添付解説書類あり

- 2012 年から 36 次にわたり、点数 179,237 点、重量 2.8 トンの土器を圧痕調査した結果、全国で検出されているコクゾウムシ圧痕の約半分の 173 点のコクゾウムシ圧痕を検出しました。
- コクゾウムシは定住的な集落にあるドングリやクリなどのデンプン質貯蔵食物を加害する家屋害虫です。その存在は豊かな貯蔵食物があったことを意味します。
- 同時に検出されたアズキやダイズ圧痕は、九州地域におけるダイズ・アズキ栽培開始の様相を解明するために重要な資料となります。
- 上記の内容と最近の圧痕調査研究の動向を交えて、以下に発表予定です。

平成 27 年度宮崎県考古学会総会講演会

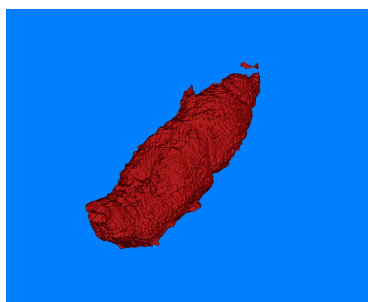
講演タイトル：縄文時代の定住集落とコクゾウムシ

— 宮崎県本野原遺跡の土器圧痕調査の成果から —

日時：平成 27 年 6 月 13 日（土）午後 13：45～15：15

会場：生目の杜遊古館 宮崎市大字跡江 4058-1

[http://www.jomon-no-mori.jp/kagoshima\\_kouko\\_event/miyazaki\\_kouko\\_tirasi.pdf](http://www.jomon-no-mori.jp/kagoshima_kouko_event/miyazaki_kouko_tirasi.pdf)



← X 線 CT で撮影したコクゾウムシ圧痕

【お問い合わせ先】

熊本大学文学部歴史学科

担当：小畑弘己

電話：096-342-2423

e-mail：totori@kumamoto-u.ac.jp

## 最も多量にコクゾウムシ圧痕を出土した遺跡

熊本大学文学部 小畑弘己

### 全国出土例の半分のコクゾウムシ圧痕

宮崎市田野町本野原に所在する縄文時代後期前半の大規模遺跡である本野原遺跡出土土器を2012年よりおよそ3年間にわたり圧痕調査した結果、173点のコクゾウムシ圧痕を検出した。コクゾウムシ圧痕は2005年に元福岡市教育委員会の山崎純男氏によって発見されて以来、その検出例は年々増加し、現在では主に縄文時代を中心に、東北地方から沖縄本島までの51遺跡から発見されている。

本遺跡は、そのうち最も多くコクゾウムシ圧痕を出土した遺跡となる。全国で発見されているコクゾウムシ圧痕の総数は327点であり、その50%強が本遺跡から検出されており、その数は群を抜いている。これまでもっとも多くのコクゾウムシ圧痕が検出されていたのは、鹿児島県曾於市の宮之迫遺跡（縄文時代後期前葉）であり、23点であった。また、縄文時代唯一のコクゾウムシの生体化石を出土している三内丸山遺跡（縄文時代前期末～中期中頃）では圧痕18点を検出されており、生体化石107点を加えても、125点であり、本遺跡の検出数には及ばない。

コクゾウムシ圧痕は、当初、イネとともに朝鮮半島経由で伝来したものと考えられていたが、2011年に小畑らによって、種子島の三本松遺跡（縄文時代早期前半）でおよそ1万年前の圧痕が発見され、イネの伝来の証拠としてではなく、ドングリやクリなどの縄文時代以来の伝統的な貯蔵食物に寄生していたもので、定住的な集落とそこに保存された乾燥デンプン質食物の存在の証拠と考えられるようになっていた。

### 定住的大規模集落と豊富な貯蔵食物の証拠

本遺跡は九州地方でも珍しい環状構造をもつ縄文時代後期前半を中心とした拠点的大規模集落であり、その重要性から平成16年9月30日に国史跡に指定されている。113軒に及ぶ竪穴住居址や21棟の掘立柱建物址が中央の広場を中心に配置され、広場に配石遺構や土坑が構築されている。コクゾウムシはこの遺跡の最盛期と期を一にするように、その約半分が後期前葉を中心に分布し、後期後半以降は激減する。これはコクゾウムシが定住的な集落の貯蔵食物を加害した家屋害虫であったことを強く示唆している。

また、コクゾウムシ圧痕は、青森県や富山県などの寒い地域からも検出され、五島、奄美、徳之島などの島嶼部でも検出されている。コクゾウムシは遠くへ飛ぶことはできず、その生活圏は数キロ内に限られていることから、その寒い地域や島嶼部への拡散には人間による食料の運搬があったことを意味している。

### 九州でのダイズ・アズキ栽培の開始の証拠

また、本遺跡の圧痕としては、このほかに、ダイズとアズキの圧痕が 50 点余り検出されており、これらの栽培マメ資料は九州地域で最も古い例である。ダイズやアズキの栽培は中部地方や西関東地方で縄文時代前期末には開始されており、九州地方における栽培は後期後半以降にそれらが伝播してくることで発生すると考えられていた。宮崎県内では、これまで縄文時代後期中葉（市来式土器段階）の圧痕資料や炭化マメ類が検出されていたが、本遺跡例は土器型式においてさらにそれらを遡る縄文時代後期前葉（宮之迫式・指宿式土器）の例であり、その時期がさらに古くなった。また、集落構造にみる東日本の様相は東日本からのマメ栽培の伝来の可能性を示唆しているが、今後、これら圧痕資料を詳細に検討することによって、東日本からの栽培技術の伝来の有無を含め、九州地方におけるダイズ・アズキ栽培がどのようにして始まったのかを明らかにする上で貴重な資料である。

### 最も多量の土器が圧痕調査された遺跡

圧痕調査は、宮崎市埋蔵文化財センターに保管されている同遺跡出土土器のほぼすべての土器を対象に 36 次にわたって行った。土器の総量は、461 個のコンテナに収納された点数 179,237 点、重量 2.8 トンの土器であり、そこから 550 点あまりの植物種実や昆虫、貝などの圧痕を検出した。そのうちコクゾウムシ圧痕が最も多く、約 3 割を占める。ダイズやアズキの種子やコナラ属果実、カラスザンショウやブドウ属果実、ムクノキ核などの圧痕も検出した。

これまで圧痕調査が実施された遺跡では三内丸山遺跡や佐賀市東名遺跡で 5 万点ほどの土器を調査した例があるが、本遺跡はおそらく全国でもっとも多量の土器が圧痕調査された遺跡となろう。

### 総括

本遺跡ではこれまで、食料を示す資料としては、炭化したコナラ属種子（ドングリ）しか検出されていなかった。今回の土器圧痕調査によって、それ以外の多様な食物があったことが明らかになるとともに、本遺跡の定住的な生活様式と豊富な食料の存在が立証された。

連絡先 熊本大学文学部小畑弘己研究室 096-342-2423

小畑弘己 携帯 090-6639-8038

小畑メール [totori@kumamoto-u.ac.jp](mailto:totori@kumamoto-u.ac.jp)

# 平成27年度 宮崎考古学会総会のご案内

開催日 平成27年6月13日(土)

場 所 生目の杜遊古館 研修室(宮崎市大字跡江4058-1)

## 【日程】

12:30 ~ 受 付

13:00 ~ 総 会

(1) 会長挨拶

(2) 議長選出

(3) 議 事

① 平成26年度活動報告

② 平成26年度決算報告

③ 平成27年度活動報告

④ 平成27年度予算

⑤ その他

13:40 ~ 休 憩

13:45 ~ 講 演 「縄文時代の定住集落とコクゾウムシ -宮崎市本野原遺跡の土器圧痕調査の成果から-」

小畑 弘己 氏 (熊本大学文学部)

15:15 ~ 休 憩

15:20 ~ 研究発表 「宮崎平野部における蒸し調理技術の普及について」

松崎 大嗣 氏 (鹿児島大学大学院)

15:50 ~ 研究発表 「西都原古墳群における埴輪生産の一様相 -212号墳表採資料から-」

淵内 美智子 氏 (宮崎市教育委員会)

16:20 ~ 閉会行事

※タイムスケジュールは議事の進行や発表の内容により、変動する場合があります。